

【事業名称】

第 14 回日中友好交流会議

【開催日時】

2014 年 9 月 22・23 日

【開催場所】

大阪市北区・リーガロイヤルホテル大阪

【主催者・共催者等】

公益社団法人日中友好協会、中国人民対外友好協会、中日友好協会

【事業内容】

(公社)日中友好協会、中国人民対外友好協会、中日友好協会は 9 月 22・23 日の両日、大阪市内のホテルで第 14 回日中友好交流会議(以下、交流会議)を開催した。「民間交流の新たなる高まりを!」をテーマに、冷え込む日中関係の打開に向けて率直な意見を出し合った。双方の参加者は 2 日間の議論を通じて「大阪宣言」



主催者代表のあいさつを行う酒井副会長

を採択し、「相互に温かく、思いやりのある民間交流」を行える状況を作り出すことを決意し、これを宣言した。

交流会議は 2012 年 5 月の貴州省貴陽市開催以来、約 5 年ぶりの日本開催。NPO 法人大阪府日中友好協会が主管した。中国からは謝元・中国人民対外友好協会副会長を团长とする代表団一行 7 人を含む 132 人(地方政府と人民対外友好協会の 32 の代表団)が来日。日本側は酒井哲夫副会長、谷井昭雄名誉副会長(大阪府日中会長)ら協会役員と、地元大阪を中心とする 28 の都道府県協会の会員ら 274 人が参加した。日中双方で 400 人を超え、両国関係改善の機運を高めることを目的とする交流会議への関心の高さがうかがえた。来賓として、王晓渡・駐日中国大使館公使、劉毅仁・駐大阪中国総領事館総領事、松井一郎・大阪府知事、三輪昭・外務省関西担当大使らが出席。王公使と松井知事がそれぞれ来賓あいさつを行った。

冒頭で酒井副会長と謝元副会長がそれぞれ、主催者を代表してあいさつした。酒井副会長は「テーマにある『新たなる高まりを』には、日中関係が厳しくなっていることを認識した上で、さらに強力な交流を推進しなければならないという決意が込められてい

る」と述べた。一方、謝元副会長は「中日友好の希望や力は民間にある。『民を以て官を促す』という伝統を生かして交流を進め、中日関係の大局を大切にしなければならない」と述べた。22日午前の全体会議では、宇都宮徳一郎・協会副会長と王秀雲・中日友好協会副会長がそれぞれ基調報告を行った。

「福むすめ」が景気付け

開会式では、商売繁盛の神様が祀られる大阪・今宮戎（えびす）神社の「福むすめ」5人が登場し会場を盛り上げた。5人は主賓・来賓の入場を先導し、壇上で会議の成功を祈って「大阪締め」で景気付けを行った。また、会場では大阪の街を紹介する映像も流された。来賓あいさつに立った松井府知事は、「大阪と中国の交流の歴史は古く、遣隋使や遣唐使は大阪から出航したとされる。その大阪で初めて日中友好交流会議が開かれ、とてもうれしく思う。会議が両国関係改善に重要な役割を果たすことを期待している」と述べた。



福むすめが景気付け

「大阪宣言」を採択

22日の全体会議では、日本人を称える小説『紅櫻花』の著者・彭暁立氏が協会に同著を贈呈。さらに、今年8月に雲南省で起きた地震への被害に対し、岡崎温理事長が協会を代表して程雲川・同省人民対外友好協会副会長に義援金を手渡した。同日昼には経済関係者らによる「日中経済懇談会」を開催し、谷井昭雄・大阪府日中会長が、関西が商業地域として対中貿易が盛んであることをアピールした。



「大阪宣言」を読み上げる林雅清会長ご夫妻

また翌23日の全体会議では、大阪大学の藤田正憲名誉教授が「環境対策 日本の経験」と題して記念講演を行い、大阪の事例を中心とした大気汚染や水質汚濁、公害訴訟の歴史などについて講じた。このほか、35歳の若さで会長に就任した大阪・熊取町日中の林雅清会長が「大阪宣言」を中国語で、林会長夫人が日本語でそれぞれ読み上げ、万雷の拍手で採択された。

閉会のあいさつでは、王秀雲副会長が次回の中国での開催地は調整中であることを発表。岡崎理事長が「会議をきっかけに、日中双方が民間交流の新しい局面を作るよう努めましょう」と述べ閉会。参加者は次回会議での再会を約束し、会場を後にした。

分散会で民間交流促進について討議

日中の参加者は22日午後、3つの会場に分かれて分散会を行い、率直な意見を述べ合った。各会で日中1人ずつが座長を務めた。

分散会では、自分が所属する組織・機関のこれまでの交流活動について紹介し合い、日中友好に尽力した廖承志・中日友好協会初代会長や藤尾昭・池田市日中名誉会長ら故人の功績なども話題に上がった。中国側の参加者は遠慮しているように感じられたが、大阪の参加



第一分散会の模様

者の冗談を交えた発言に場が和むと、徐々に積極的に。活発な議論からは双方が友好都市などの交流を生かし訪問団を派遣したい意向が分かった。また、経済面での交流や環境保護、青少年交流などが共通の関心ごととして話題となり、特に日本側は後継者育成の観点から、若い世代同士が交流できる機会を増やし、会員を獲得することが急務であることを強調した。今回の出席者の中でとりわけ若い、第3分散会の酒井英徳・兵庫県日中事務局長(39)は、日本でも人気の『三国志』をテーマにしたイベントに県協会のブースを設置することや、ITツールを駆使することで、留学生を含む若者を活動に取り込む方法などを紹介した。

たこ焼き、串かつが並んだ懇親会

22日夜に開かれた懇親会では、歌手・高橋樺子さんによる替え歌「您好再见音頭」や、地元の高校生らによる出し物が披露された。

谷井昭雄・大阪府日中会長が主催者を代表してあいさつし、「皆の力を一つの絆にして、国のリーダーに伝わる働きをしていきたい」と述べた。その後、日中友好が子々孫々続くことを願い鏡割りが行われ、司会の戸毛敏美・大阪府日中副会長が中国の成語「破鏡重圓(復縁する)」を用いて鏡割りの由来を説明した。谷井会長や来賓らが色とりどりの法被(はっぴ)をまとって酒だるを打ち、田中清剛・大阪市副市長の発声で乾杯した。会場は溢れんばかりの参加者で埋めつくされ、歩くのも一苦勞。大きな笑い声が絶えず、隣同士の会話も自然



(上) 鏡割りの模様
雄会長
(右) あいさつする谷井昭



と大声になっていた。

会場に設けられた大阪名物のたこ焼きや串かつのブースには長い行列ができ、すぐに無くなるほどの人気ぶりだった。日中の参加者はアツアツのたこ焼きと日本酒に舌鼓を打ちつつ時を忘れて語り合い、宴もたけなわの中、梶本徳彦・大阪府日中副会長が締めあいさつを行った。



たこ焼きのブース

■ 交流会議に参加して

清瀧美登里 和歌山県日中副会長

協会に入って 30 数年、初めて参加しました。日中双方の考え方のほか、各地の協会での取り組みや台所事情が良く分かりました。県日中が紀三井寺で行っている式典の紹介もできてうれしいです。

鄭竹筠 浙江省人民対外友好協会副秘書長

20 数年来の友人である酒井哲夫副会長をはじめ、多くの方々にお会いできました。皆が直面している問題を率直に述べ合うのはとても良いことです。近隣の友好団体を交えて話し合う機会を設ければ、よりすばらしいと思います。